

小学校社会科教育 理論研修会 終了報告

テーマ	追究を通して、主体的に社会とかかわる力を育む社会科学習の創造	
日時	令和 5年 7月 7日(金)	
会場	オンライン	
講師	佐藤 正寿 氏 (肩書:東北学院大学教授)	
参加者	約25名	
研修会 の 様子		<p>オンラインの学習や講演会の経験が、コロナ禍を経て増えてきたこともあり、チャット機能を駆使し、双方向の学びを行えるようにしました。日々の授業にすぐに活用できる情報をたくさん提供していただき、参加者にとって大変有意義な講演会となりました。</p>
		<p>1点目の「優れた発問と資料提示」では、有田和正先生の実践と、教科書に載っている資料を例に、どのような発問をするとよいのかを、佐藤先生からお話しいただいたり、参加者の意見を交流したりしました。その中で「資料と発問はセットである」、「『どの資料で』『何を問うのか』が大切」であると感じました。</p>
		<p>2点目の「複線化と個別最適・協働的な学び」では、社会科の視点で昨今大きく取り上げられている個別最適・協働的な学びについてお話しいただきました。文科省から提示されている「個別最適・協働的な学び」と、これまで社会科教師が研究・実践を積み重ねてきたものは違うと明確に感じました。その上で1990年代に取り組まれていた「複線化」の理論・実践は、2020年代の今に多くの示唆を与えてくれるように感じました。</p>
	<p>3点目の「これからの社会科で大切にしたいこと」では、子どもたちに表現させることが第一段階だとすると、その後考えを交流することで、社会的見方・考え方を学級全体に共有することが大切なこと、探究的なサイクルを活かしながら、その段階をレベルアップさせていくことが第2段階なんだということを感じました。</p> <p>そのステップアップを図っていく過程やタイミングこそ、教師の専門性なのだと、今回の講演から感じました。</p>	